

甲南大学メガネリサイクルプロジェクト マレーシア訪問・RiSER 2025 メガネ配布活動報告書



はじめに

甲南大学メガネリサイクルプロジェクトの活動にご支援くださいました皆様、誠にありがとうございます。

皆様のご支援により、学生3名が2025年12月にマレーシアを訪問し、メガネの配布活動に参加し、大変貴重な経験をすることができました。今回の経験を、今後の活動に生かしてまいります。

本冊子では、マレーシア訪問の活動内容についてご報告させていただきます。

CONTENTS

- i. はじめに
- ii. 目次
- iii. 活動報告
- iv. 活動を終えて

活動報告

甲南大学メガネリサイクルプロジェクトでは、皆様のご支援により、学生3名がマレーシアを訪問し、2025年12月22日から24日にかけて、日本で回収した1,419本のメガネを持参し、マレーシア国民大学によるメガネの配布活動と文化交流に参加しました。なお、今回の現地訪問には、指導教員である山本シャーリ教員が同行しました。

マレーシア国民大学は、本プロジェクトの学生を受け入れるためにRiSER2025というイベントを開催してくれました。RiSERとはRestoring iSight, Embracing Rootsの略で、視力の回復とルーツの受容を意味します。このイベントでは、甲南大学メガネリサイクルプロジェクトが回収したメガネを、マレーシア国民大学健康科学部オプトメトリー学科がネグリ・センビラン州ポートディクソンで実施したモバイル検眼クリニックで配布しました。あわせて、マレーシアの伝統文化に触れる文化交流も行われました。現地活動の日程は、下記のタイムテーブルの通りです。

次ページ以降に、現地での活動の様子を写真と共に説明をつけてご報告いたします。

SCHEDULE

1日目 - 2025年12月22日

10:00 - 到着、ウェルカム
ブリーフィング
10:30 - 視力検査の紹介、
地域住民向け基礎的な眼科ケ
ア啓発セッション
11:30 - 大学のクリニックとラ
ボ見学
12:30 - 昼食
13:00 - ネグリ・センビラン州
ポートディクソンへ移動
15:00 - チェックイン
16:00 - 村紹介&アフタヌーン
ティー
20:00 - 夕食
ホストファミリー宅にて宿泊

2日目 - 2025年12月23日

8:00 - 朝食
9:00 - 視力検査とメガネの
配布
12:30 - 昼食
14:00 - 地域清掃活動
17:00 - アフタヌーン
ティー&伝統的コミュニ
ティゲーム
20:00 - マレーシア伝統料理
と衣装をフィーチャーした文
化夕食会
ホストファミリー宅にて宿泊

3日目 - 2025年12月24日

8:30 - 地元村落訪問&工
芸ワークショップ
11:30 - 閉会式
12:30 - 昼食
13:00 - クアラルンプール
へ出発

活動報告 マレーシアでの活動レポート

学校見学

*プロジェクトの活動をまとめているPadletの投稿をもとに作成しています。

⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

マレーシア国民大学に到着

今回のために横断幕を作ってくださいました。
ありがとうございます！



⇒

活動説明の聴講

今回が初めてのRISERプログラムであり、その目的や背景について詳しく説明してくださいました。マレーシア国民大学の健康科学部オプトメトリー学科としての想いや活動に対する真剣な姿勢が伝わってきました。Dr.Mizhanim学科長を初め、私たちを温かく迎えてくださり、初めてのRISERプログラムの開会においてご挨拶をしてくださいました。その後、今回のプログラムを企画して下さったDr. Haliza教授が、オプトメトリー学科の取り組みや地域貢献活動についてより詳しい説明を行いました。



メガネ回収箱

甲南大学との連携が始まってから、マレーシア国民大学では、遠隔地で行われているコミュニティサービス活動の中で、プロジェクトで回収されたメガネが、実際に役立てられてきました。その流れの中で、キャンパス内の眼科検診クリニックにメガネ回収ボックスを設置することが決まりました。これは、マレーシア国民大学にとって初めての取り組みだそうです。回収箱が透明なため中身が見えやすく、私たちのものより効果が高そうだと感じました。日本から届くメガネだけではなく、マレーシア国内から届くメガネももっと増えてほしいと思います。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

視力検査の練習室

キャンパス内には視力検査の練習室が設けられていました。8人同時に行うことが可能で、鏡を利用したアナログな検査台とデジタル化された検査台の両方がありました。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

実際に体験！

日本と同様に、一定の距離から画面に表示されたものがどの大きさまで見えるかを確認します。「C」の穴の向きを答える検査に加え、表示されたアルファベットを読む検査や表示された数字を読む検査、「E」の向きを答える検査もありました。さらに、小さな子ども向けとして、絵を用いた検査も準備されていました。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

クリニック受付

ここでは実際の眼鏡店と同じように、受診からメガネの購入までを1カ所で行うことができます。この日は、子どもから高齢の方まで様々な年代の方がいらっしゃいました。地域の眼科医療の拠点となるとともに、眼科医療の人材を育成するシステムができていることに感銘を受けました。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

診察室

こちらは、実際に診察を行う部屋になります。先ほどの機械に加え、検眼枠なども備えられていました。実際に視力検査を行っているところも見学させていただきました。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

診察室

視力測定を行うだけでなく、目の状態などについても検査を実施したうえで、患者さんに対して丁寧な説明が行われます。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

メガネの購入

もちろん、購入まで可能となっています。フレームの太さや丸みなど、豊富な種類が用意されており、老若男女全ての人に対応しているとのことでした。このブースも学生が交代で運営しています。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

レンズメーター

メガネのレンズの度数測定を行うことができます。機器によって性能に違いがあるため、初めは手動で操作する必要のあるものから練習を行うそうです。レンズメーターをはじめ、日本企業の機械が多くあり、この面でも日本とマレーシアのつながりを感じることができました。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

レンズ作成

フレームの形状を読み取った後、レンズを機械に装着することで、自動でその形に削ってくれます。私たちが集めたメガネの中には、マッチングしにくい度数のものやレンズに傷があるものがあります。この機械を使えば、そのようなメガネのフレームも有効活用することができると感じました。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

見学終了

大学として目の不自由な方への支援活動に取り組んでいることもあり、施設や知識が非常に豊富だと感じました。また、学生が実践を通して経験を積んでいく場が整っていることがすばらしいと思いました。今後の活動に活かすことのできる有意義な見学となりました。



メガネ配布活動

⇒ 活動開始

マレーシアのポートディクソンという場所で、いよいよメガネの配布活動を開始します！マレーシア国民大学の学生は視力検査を行い、私たちはメガネの配布を行います。今回は、日本から1,419本のメガネを持参することができました。メガネは球面度数を基準として、マイナス度数が大きいものからプラス度数が大きいものへと「-5~-4」、「-4~-3」...「+4~+5」といった球面度数の階級ごとに並べます。レンズの度数が強いもの（球面度数が-5より強いもの、+5より強いもの）に関してはマッチングしにくいと考えられるため、別にまとめて集めておきます。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

メガネの整列

まずは、日本から持参したメガネを度数ごとに並べます。こうすることで、必要なメガネを効率よく探すことができます。



甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

視力検査

マレーシア国民大学の学生が視力検査を行っている様子です。学生一人ひとりが本人専用の検査キットを持っているため、それぞれのペースで検査を最後まで行うことが可能です。丁寧に問診を行ったうえで、片目ずつ視力測定を実施します。そして、実際にレンズを用いて適切な矯正視力の確認を行います。この写真の右側がポートディクソンの方、真ん中がマレーシア国民大学の学生、左側がマレーシア国民大学の教員です。



甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

視力検査見学

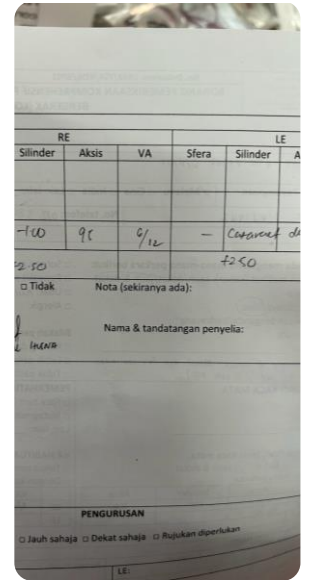
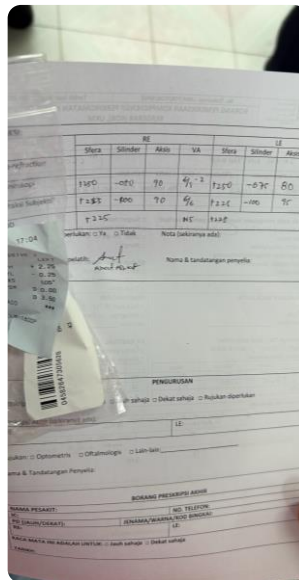
残念ながら私たちには検査を行うための技術や知識が十分でないため、見学のみとなりました。しかし、いつかは自分たちも一緒に検査ができるようになりたいと感じました。また、マレーシア国民大学の学生による検査を間近で見学することができ、その高い熱意と丁寧な対応に良い刺激を受けました。



甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

検査結果

このような感じで学生が記録を行います。記録用紙の最上段に記載された数値を見てメガネを探します。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

メガネ探し

視力検査が終わると、次はいよいよメガネ探しです。遠視用メガネや近視用メガネ、サングラスというように、用途ごとに使い分けられるよう、1人あたり2~3本のメガネをお渡しします。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

メガネ渡し

適切な度数の眼鏡が見つかりました！実際に眼鏡を試着してみて、見えやすさや着け心地の確認をします。もし見え方に問題がある場合は、マレーシア国民大学の教員がより適した度数の眼鏡を提案します。また、同じ度数の眼鏡を複数用意して、着け心地を比較し、最も本人にあった眼鏡をお渡しします。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

配付成功

今回は、合計60本のメガネをマッチングすることができました！その後、マッチングしたメガネを着用して他の活動に参加される方々を見て、大きな喜びを感じることができました。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

検査バス

移動しながら検査を行うことができる、検査バスもありました。車内には視力検査に必要な機械が一通りそろっており、視力検査やメガネレンズの成形まで対応が可能です。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

配布を終えて

実際にメガネの配布を経験して、日々集めているメガネが実際に現地の方々に届くことを目の当たりにすることができました。メガネを集めることとメガネを届けること、この循環が達成されたことをとてもうれしく感じました。一方で、メガネをマッチングする際の課題も発見することができました。マレーシア国民大学の教授からは、マッチング時に優先する指標についても教えていただきました。今後は、より円滑に配布活動が行えるよう、メガネの受け渡し方法を工夫していきたいと思います。



文化的体験

⇒ [甲南大学メガネリサイクルプロジェクト](#)

伝統音楽の演奏

伝統的な衣装に身を包み、伝統的な音楽を演奏しました。演奏はマレーシア国民大学の学生と一緒に行いました。日本にはない楽器ばかりで戸惑う場面もありましたが、全員で音楽を奏でることができ、一体感を覚えました。



⇒ [甲南大学メガネリサイクルプロジェクト](#)

伝統住宅

マレーシアの伝統的な家がありました。この家は高床式となっており、持ち運びが可能なものとなっています。実際に、この家は他の場所から現在の場所まで運ばれてきた家で、築約100年だそうです。家には窓がたくさん設けられており、風通しの良さが感じられました。



⇒ [甲南大学メガネリサイクルプロジェクト](#)

編み物体験

マレーシアの伝統的な編み物体験を行いました。ポートディクソンの方々に編み方を教えていただきました。現地の方々との交流を行うことができ、とても有意義な時間となりました。また、現地の方々にメガネを配布するだけでなく、実際に前日に受け取ったメガネをかけている姿を見ることができました。前日は視力改善のためのメガネ選びをお手伝いし、翌日にはマレーシアの現地住民の方々の文化や伝統を学ぶ機会をいただきました。視力の良さが人々を力づけることを改めて実感する貴重な体験でした。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

色づけ体験

お花や葉っぱの模様の色づけをする体験も行いました。作品には各国の色彩感覚が表現されており、非常に興味深かったです。



⇒ 甲南大学メガネリサイクルプロジェクト

ポートディクソンの夕日

今回は、メガネの配布活動以外にも、様々な文化交流をすることができました。そして、全ての活動で、マレーシア国民大学の方々やポートディクソンの方々の温かさに触れることができました。一方で、配布活動を一緒に行ったマレーシア国民大学の方々は、非常に優しく親切で、熱意をもって活動をされていました。そのような方々だからこそ、もっと力になりたいと感じる場面がたくさんありました。



今回メガネをお渡しした方々







活動を終えて

RiSER 2025 での経験は、甲南大学メガネリサイクルプロジェクトにとっても、参加したメンバー一人ひとりにとっても、非常に貴重で心に深く刻まれる学びの機会となりました。

海外でのメガネ配布は、本プロジェクトの発足当初からの大きな目標であり、このたびその実現に至ったことは、多くの方々のご支援とご協力の賜物です。改めて、人と人とのつながりが持つ力の大きさを実感しました。

今回の活動では、メガネの回収から配布までの一連の流れを自ら担うことができました。実際の配布現場に立ち会ったことで、プロジェクトの意義を再確認するとともに、新たな課題にも気づくことができました。回収と配布は独立した作業ではなく、互いにフィードバックし合いながら質を高めていくものであると強く感じています。

今後も、このつながりを大切にしながら、配布を見据えた回収活動、そして回収の先にある配布活動の双方をより良いものにしていきたいと考えています。

プログラムを終えた今、名残惜しさのような気持ちもありますが、それはこのプログラムがそれだけ充実したものであった証だと感じています。最後になりましたが、このような貴重な機会をご提供・ご支援いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

謝辞

甲南大学メガネリサイクルプロジェクトの活動にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

まず、マレーシア国民大学健康科学部オプトメトリー学科の Dr. Mizhanim Mohammad Shahimin、Dr. Haliza Abdul Mutalib、Dr. Bashirah Ishak、Dr. Norliza Mohamad Fadzil、Dr. Encik Mohd Norhafizun Mohd Saman の先生方、ならびに同学科の学生の皆様、そしてポートディクソンで私たちを温かく迎えてくださった皆様に感謝いたします。

また、ライオンズクラブ国際協会335複合地区の増本様をはじめ、地域で回収ボックスを設置しご協力いただいたコミュニティ施設の皆様、メガネのトミタの冨田様、松倉めがねの松倉様、株式会社日本オプティカル様、GLASS STUDIO®様、そしてメガネをご寄贈くださった皆様にもお礼申し上げます。

さらに、学内では、国際交流センター、社会連携機構事務室をはじめ、本プロジェクトの実施にあたりご支援いただいた皆様に感謝いたします。

今回の活動を通して、多くの方々とのつながりの大切さを改めて実感するとともに、貴重な学びと経験を得ることができました。こうした機会をいただけたのも、皆様の温かいご支援とご協力のおかげです。この場をお借りして、改めて心より御礼申し上げます。



Konan University Eyeglass Recycling Project



甲南大学

メガネリサイクルプロジェクト

Student volunteers for a bright global future!

編集

甲南大学法学部 吉井遇瑠
甲南大学経済学部 金子千春
甲南大学経済学部 廣田晴己

プロジェクトメールアドレス：

konan-meganeproject2024@konan365.onmicrosoft.com

プロジェクトインスタグラム：

meganeproject_volunteer

